



# OCIによる中国化粧品法規制特別セミナー

中国化粧品に関する新条例は、2021年1月の施行以来2年が経過しました。この間にも付随した新ルールが次々と制定され、疑問や課題を抱えている企業に向け、中国化粧品新法規の最新情報をお伝えするとともに、新法規の対応方法や日本企業の登録備案申請実務について解説いたします。

また、特殊化粧品\*登録における重要なポイントやトレンドについてもお話しいたします。  
\*完全には一致しないが、日本でいう医薬部外品と同じ扱い

2023年9月26日(火)

14:00-14:30 受付

14:30-15:10 コロナ後の中国化粧品市場

-日中化粧品国際交流協会 理事長 楊建中

15:10-16:00 中国新法規制下における特殊化粧品登録の現状と展望

-OCI化粧品コンプライアンス課長 朱紅蓮 (\*逐次通訳入り)

16:00-16:20 休憩

16:20-17:30 中国化粧品新原料登録・届出の最新要件及び今後の見通し

-OCI副社長 王彦麗 (\*逐次通訳入り)

17:30-18:30 懇親会

【場所】:神戸国際ビジネスセンター 【講演会:4階 懇親会:1階】

【参加費】会員:14,000円(税込) 非会員:28,000円(税込)



- ◆ 中国国内で最も歴史ある(2006年設立)法規制コンプライアンスサービス会社
- ◆ 80件以上の特殊化粧品登録管理
- ◆ 10件以上の新原料備案
- ◆ 世界トップ500社のうち、125社にサービス提供実績

主催:(一社)日中化粧品国際交流協会  
共催:北京正智遠東化工信息有限公司(OCI)

## 講師紹介 & 講演要旨



日中化粧品国際交  
流協会 理事長  
楊建中 博士

北京市生まれ、1985年に来日。1991年に大阪市大より工学博士号を修得。アメリカにてポスドクを経験後、1994年P&G社研究職に着任し、アメリカと日本研究所のヘアケア製品開発主席研究員を歴任。2009年4月より、美研創新株式会社を設立すると共に代表取締役社長に就任。2020年8月より、中国大手化粧品メーカーPROYAとの合弁会社株式会社オー・アンド・アールを設立し、取締役 チーフR&Dオフィサーに就任。2012年4月、発起人として一般社団法人日中化粧品国際交流協会(www.cosmo-jc.org)を設立、現在日中の企業会員は186社。兼職:北京工商大学中国化粧品研究センター特別顧問、江南大学客員教授、北京化工大学兼任教授、上海交通大学教育集团客員教授、『China Detergent & Cosmetics』、『happi Asia』、『happi China』、『中国化粧品』編集委員。

**講演要旨:** 昨年コロナが原因でマイナス成長となった中国化粧品市場は、コロナ収束後緩やかに回復しており、同時に電子商取引のシェアが伸びつつある。「効能・効果時代」に入った中国市場において、ストーリー性のある成分が配合された製品は人気を呼んでいる。



OCI化粧品コンプライアンス  
課長 朱紅蓮 女史

化学工学・工芸学科卒業。長年にわたる化粧品コンプライアンスサービス経験と成功事例を持つ。複数のグローバル500企業、特に日韓、欧米の化粧品会社の法規コンサルティング、処方分析および備案登録サービスを担当。新法規下で化粧品企業の品質システムの構築、製品効能および安全性評価報告書の作成に豊富な経験と実績があり、中国化粧品の新旧法規監督管理システムを熟知しており、この3年間の中国化粧品監督管理モデルの変化、地域法規および監督管理革新に対して十分な戦略意識を有する。

**講演要旨:** 中国における特殊化粧品の登録プロセスと難点を徹底解説。

新法規下での特殊化粧品の移行期間における要求、日本の医薬部外品が中国市場に参入する際の難点、新法規下で登録済みとなった特殊化粧品の数量、分類、および今後の登録傾向などを解説。最後に、特殊化粧品の登録に関するFAQにお答えする。



OCI副社長  
王彦麗 女史

応用化学専攻修士課程修了。化粧品および化学品のコンプライアンスサービスに10年以上従事し、多くのグローバル500企業に化粧品の新原料登録/届出、既使用原料の届出、アメリカPCPC-INCI申請、EU-CPNP届出などのコンサルティングと実務の代行実績がある。王彦麗女史が率いるチームは、NMPAにおける化粧品新原料の登録公示に10件以上の成功実績を持ち、新法規に精通した、中国で最も優秀な化粧品法規とコンプライアンスのエキスパートである。

**講演要旨:** 中国新法規下での化粧品原料に関するコンプライアンス要求:例えば化粧品新原料の登録/届出および安全監視期間の業務、既使用原料の安全性情報の提出、化粧品製品の安全性評価報告書(完全版)など、王彦麗女史はこれまでの経験を結合し、完全性コンプライアンス案と将来の展望などを解説する。